

別記様式（第5条関係）

会 議 録

|                    |                    |                                                                                                   |
|--------------------|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会議の名称              |                    | 令和6年度 第6回郷育推進会議                                                                                   |
| 開催日時               |                    | 令和7年3月4日（火） 18：30～20：00                                                                           |
| 開催場所               |                    | 市役所本館2階庁議室                                                                                        |
| 委員名                |                    | （1）出席委員 木本会長、伊藤副会長、東委員、山口委員、宇都宮委員、井上委員、濱田遼委員、<br>（2）欠席委員 原尻委員、柳田委員、濱田真委員                          |
| 所管課職員職氏名           |                    | 郷育推進課長 芹野 文彦<br>郷育推進課郷育係長 田上 智子<br>郷育推進課郷育係 橋詰 結菜                                                 |
| 会<br><br><br><br>議 | 議 題<br>（内 容）       | ○福津市生涯学習推進計画の改定に向けた提言について                                                                         |
|                    | 公 開 ・ 非 公 開<br>の 別 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 |
|                    | 非公開の理由             | —                                                                                                 |
|                    | 傍聴者の数              | 0 人                                                                                               |
|                    | 資料の名称              | ○第6回郷育推進会議<br>○福津市生涯学習推進計画改定に向けた提言（案）                                                             |
| 会議録の作成方針           |                    | <input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録                                                           |
|                    |                    | <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録                                                |
|                    |                    | <input type="checkbox"/> 要点記録                                                                     |
|                    |                    | 記録内容の確認方法：会長による確認                                                                                 |
| その他の必要事項           |                    | 配布冊子「社会教育委員の手引その44」                                                                               |

審議内容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

事務局挨拶

1. 開会のことば

2. 協議事項

●会長

今日は今年度最後の郷育推進会議。皆さん本当に2年間お疲れ様でした。今年1年間で提言を作り上げることができた。今日は、郷育推進会議での協議が今後どのように教育行政につなげられるか意見や感想を伺いたい。資料1に記されている福津市教育大綱の構想当初から、現在、社会や教育現場、福津市の状況は大きく変化している。その変化に伴い、内容もアップデートしていく必要があるが止まった状態と言える。提言を提出し生涯学習推進計画の見直しをしていきたい。

〈会長が提言（案）を読み上げ〉

以上が提言(案)。中央公民館が社会教育の拠点と言いつつも活かすことができていない点に気づき提言できた。この1年間、郷育推進委員皆さんが今回まで責任をもって活動し、意見を出し合い、提言（案）をまとめることができ、良かったと思う。

各委員の感想

●委員

私は普段アンビシャスの活動を校内で行っていて、以前「登校できていない子はアンビシャスはお休み」がいいのではという意見があったが、この会議に参加したことで、放課後の居場所だから不登校の子もアンビシャスに来ていいという考えに変化した。

中央公民館は、バスがないので簡単に行けない状況で、施設内に食事や学習スペースがない。もっと人が集まりやすい場所にできないだろうか。そうなれば、キッカケラボもより認知されるのではないかと思う。また、情報の可視化と積極的な発信を行えば、保護者がどこに何があるが理解しやすい。2年間、郷育推進会議に参加したことで少しずつ自分の考え方が変化し、小さなことから何か始めたいと思うようになった。

●事務局

福津市は、中央公民館を主として各自治会が公民館を持つという組織構成。宗像市は、社会教育施設の中心としての中央公民館はない。校区ごとにコミュニティセンターがある。

●会長

中央公民館を持たない自治体の方が多いのか。

●事務局

自治体の考え方によると思う。宗像市や大野城市は各地域に権限と予算を委譲している。まちづくりの観点からどうするかは首長の考え方次第。現在、中央公民館のホールはなくす予定。

●委員

私は実際に郷づくり推進協議会として活動しているが、宗像市に比べると、権限の委譲が中途半端と感じる。

●会長

社会教育委員等の研修に行くと、中央公民館のような社会教育施設があり全てが集約している自治体もあるため、福津市の中央公民館活動について発表を求められた時、そのような役目をしていないため難しいと感じた。例えば、糸島市はホール機能を持つ施設が無く、社会教育委員研修のために結婚式会場を借りたが、高い使用料に苦勞していた。福津市は今ある施設を大事にして有効活用するべきと思う。

●委員

郷づくりと地域に分割しており中途半端という意見に共感する。来年度の郷育推進会議には、郷づくり推進協議会に出席してもらうのはどうか。また、ウォークラリーや認知症講座など各地域で様々な活動を行っているが統一性がなく、福津市はどの様な意向で郷づくりを作ったのか疑問を感じる時がある。郷育推進会議に参加して様々な場所での様々な活動があるとわかり勉強になった。

●会長

郷づくり創設の時はかなり難航し、自治会は今まで上手くやってきたからなぜ今作るのかという声もあった。また、郷づくり毎でも温度差ややり方の違いがある。委員が言われたように郷育推進会議と郷づくりがお互いを知るためにも、連携するアイデアはいいと思う。

●委員

郷づくりと郷育推進会議が繋がるのは良い。郷づくりの人たちは自分たちで何とかしようと思うところがあると思う。小学校区のコミュニティも良いと思う。交付金が郷づくりにおりて自治会に分けているが、予算の配分を決めるのが難しい現状。

会議の中で情報発信や人や活動を繋いでいくことについて意見があがっていたので、全部提言の中に盛り込まれており、いいなと思った。

●委員

郷育推進会議に来ると社会教育としての婦人会の立ち位置について考えさせられるが現状から難しい部分がある。中央公民館については、福間町と津屋崎町の合併後、カメラアでのホールの使用が増え、段々中央公民館が廃れていったのかもしれないと思う。

### ●委員

提言にある具体的な例が実際に始めやすいと思うので、できるところから実行していくのはどうか。また、提言2の交通手段の工夫については中央公民館とカメラ文化会館、駅を回遊できる交通手段があればいいと思う。児童センターフクスタに子どもを行かせたいが、校区外だとバス等もなく簡単に子どもだけで行かせるのは難しい。同じ市内で子どもたちの利用環境に差があるのは少し不平等では。公共施設を利用して校区外の子も同士で交流することで、普段得られない情報を得られるかもしれないし、今ある施設を大事に使うという考えであれば、交通手段の問題を解決したほうがいい。また、地域と郷づくりと社会教育を1本化できれば、欲しい情報を手に入れやすくなる。必要な人に欲しい情報を届けられるような整理の仕方が必要だと思う。2年間郷育推進会議の委員を務めたことで様々な考え方を知る事ができ、とても勉強になった。

### ●事務局

皆さんの社会教育に対する様々なご意見や経験談を聞いたので、提言は、皆さんの強い、前向きな思いを受け止めながらまとめた。また、宗像子どもの居場所マップが最近更新されていたので福津市も動いていきたい。

### ●会長

子育て支援センター設立の頃、問題行動を起こす子ども達について青少年指導員から意見を聞くことが多かった。その子どもたちに対して、青少年指導員だけではなく社会教育でも何かしてあげられないだろうかとの考えから家庭教育に関しても意見を出し合ったりした。社会教育は色々幅広く包括しているためバラバラになり過ぎても良くないが、できるところから少しずつやっていくことは可能と思う。

### ●事務局

・委員それぞれ別の活動をされているが、違う環境の方同志で意見を出し合うと、出た意見が実現するか分からないものの、意見や考えの共有から生まれるものがあると感じた。それを大切にしたい。

・郷育推進課は婦人会、文化協会、体育協会、市子連、アンビシャス広場など多岐に渡り関係があるが、今後も引き続き支援していく。また、青少年育成市民の会や指導委員会は繋がりがなく、それぞれが個々に活動しており、拠点公民館。それらを繋げられるといいと思う。他にも、図書館はひきこもりの子を受け入れる施設であってほしいという意見や公民館を社会教育施設としてわかたけ広場の復活を望む声もある。実際は難しく葛藤している。また、部活動の地域移行のためにも、人を繋げていく必要がある。

### ●副会長

コロナ禍でずっと議論を重ねた間に、社会も学校も大きく変化した。1人1台端末を使う授業はコロナ禍以前、情報教育の研究指定を国から受けて実施するような特別な事業だったが、今は市立の学校で通常授業で使用。社会が変化すると教育現場も変わるので生涯学習推進計画を郷育推進会議でいずれ審議することになると思う。また、提言について良いと思ったのは、自分の

ように長年この会議に在籍していると新しい視点を失うが、最近関わり始めた職員がすぐ目につくところが大事な点で、それが提言にうまく整理された。ポイントが、情報の可視化と発信、社会教育の連携を進める拠点作りで、これに尽きる。新市長が就任し提言を渡すことで教育大綱を作る際の大事な視点になると思う。議事録からまとめて大変だったと思うが、キーワードを整理できている。

今日の議論で改めて感じた事が2つある。1つは、組織や団体はかつては独立して動いていたが、今の時代は単独ではなかなか思うような活動ができず、発展させるような活動は難しく連携が必要になっていて、市役所の組織も連携しないと計画を作るのも大変。共通の要素があっても、お互い知らない所がそれぞれ計画を作ると、かえって手間がかかる。生涯学習に関しては、学校に入る前の未就学児の子どもの体験から学校教育、そして社会人になり、その後は社会教育というフィールドが主になり、一生涯に関連していく。そう考えると学校教育も含めて広く捉える必要がある。今後はここが自分たちの守備範囲などの発想を超えて議論しないといけないと思う。

現在、不登校児童の生徒が全国的に急増している。岐阜県垂井町ではNPO法人の方が公民館を改装し、居場所作りをしている。そこに地元の高校生が地域学習で利用してその方と仲良くなっている。学校に行けない子どもにお茶飲みでもいいからおいでと声をかけ、行きやすい場所になっている。先程、郷づくりの施設内に入るには敷居が高いという意見があったが、問題は物理的敷居よりも精神的な敷居。顔見知りになると入りやすくなり、そこで子どもたちが悩み相談などをして、元気を取り戻し学校に戻ったりできる。また、学校もこのコロナ禍を経て、不登校への対応方針が変化してきている。無理に登校刺激はさせず、タブレットで遠隔授業もできるため多様な学びの場を提供するという考え方になっている。そうすると多様な学びを社会教育施設も含めるかとなると学校教育と重ねざるを得ない。それぞれの組織や団体拠点がどのように繋がり連携しながら、利便性や情報共有を大事に上手く繋いでいくかの繋ぎ方の視点と、それぞれの特徴をどう使うかが今後のポイントになる。

今後、福津市は令和7年度から中学生の各中学校部活動地域展開を進めていく。その際に国から補助金を受け取り、組織を立ち上げ繋いでいくが、そこで指導者として関わる人、生涯学習や社会教育のフィールドで活躍している方がかなり大事になる。例えば、郷育カレッジには学んだ人が講師として活躍する仕組みがある。この良い仕組みがこれから一層重視されるのではないかと思う。

また、学校教育では、自ら課題を見つけながら解決していく事が今一番大事としている。業界用語では探究的な学びと言い、高校が今学習指導要領が変わり、〇〇探究という新たな科目ができた。例えば、歴史であれば何年に誰が大仏を作らせただけでなく、当時の社会情勢を知り、流行病を鎮めるためにどうしたなどの背景的なことを学ぶ。まずは問題を見出して問いを立てることが大事であるが、学校教育と重ねて子どもの探究的な学びも生涯学習の大事な柱である。

今この会議では大人だけで考えているが、子どもが入るとよりいいと思う。子どもたちも学校の総合学習の時間という授業の一環で行政に携わり、

住んでいる町の課題解決のために何ができるか、行政や社会教育委員の人と一緒に考える機会を設けることができれば、福津らしい生涯学習ができる。

●会長

ここまで皆さんの感想等を聞いてきたが、この提言に対する修正等の意見は無かったので、変更せずに、このままで郷育推進会議の提言と決定する。

皆さんに、この2年間の協力に感謝する。ここで学び見聞きしたことをぜひ外で広げてほしい。また、このような場に関わりたいという市民が増えるとともに嬉しい。先ほど伊藤先生が言われていた子ども達を会議に参加させるとか、学校や郷づくりに行き会合ができれば良いと思う。

3. 報告事項 なし

以上で終了